

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/11/29号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

南ア・オミクロン変異株ショックで市場激震

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



木曜日の米国の感謝祭休暇で実質的に週後半はマーケットは動かないでしょう、と毎朝書いているBruce Reportに書いたのですが、その書いた日の金曜日に日経平均が750円の急落。南アフリカで新たな変異種オミクロン株が発見され感染が広がっているというニュースにマーケットは大きく反応しました。アジア、欧州の株価の急落にゴールドは資金避難先として買われ、1788ドルから1815ドルまで急騰しました。しかしNYダウがオープン直後から1000ドルもの急落、いわゆる「全部売り」の展開となり、上昇していたゴールドも一時1781ドルまで急落。最後には1791ドルまで戻して一週間が終わりました。このオミクロン株に対する金融市場の反応は驚くほどのもので、WTI原油はなんと10ドル、13%もの下落となりました。恐怖指数VIXも18.5から28.6まで急騰、貴金属も同じく現金化の波に飲み込まれて急落、ゴールドだけがやはり資金逃避先としてしっかり動きだったと言えます。オミクロン株がどれほどのものなのか、まだ十分に情報がありません。これまでの変異種より感染力が強く、既存のワクチンが効かないもしくは効きにくいものだとすれば、最悪のシナリオで再び各国でのロックダウンや経済活動が制限される恐れがあり、市場はそれを恐れての「売り」となっているのでしょうか。そうなれば、FRBの金融政策にも変化が出てくる可能性があり、ゴールドにはさらなる資金の流入がふたたびあり得るでしょう。逆にオミクロン株がそこまでの脅威ではないという判断となれば、この週末に売られた資産は大きく買い戻されるものと思います。現状ではWHOはその感染力の強さに対する警戒を発表していますが、その症状の深刻度合いに関しては、まだ確証はとれていません。今後のこの変異株に関する情報が短期的には相場の流れを決めそうです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (7) 現物投資1

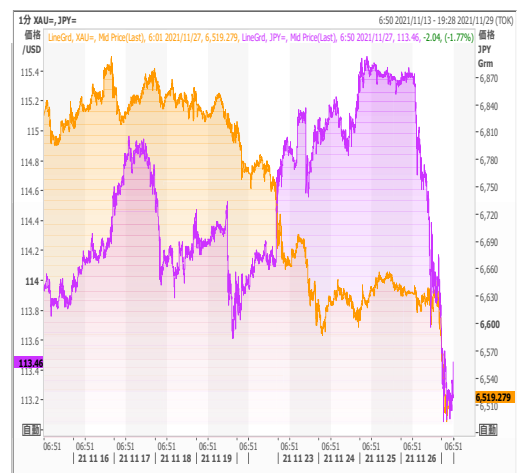
投資の形として最も一般的なものは「現物投資」です。地金と呼ばれる金の延べ板で世界で最も流通しているのは1kgバーでしょう。東アジアや欧米では金純分99.99%でフォーナインと呼ばれる純度のものです。中央銀行や金融機関など一番川上の機関投資家はラージバーと呼ばれる400オンス（約12kg前後）の大きなバーで所有するのも一般的です。ただし、ラージバーは必ずしも99.99%とは限らず、99.5%や99.9%などそのゴールドの品位（純度）も異なるため、その価値は金純分で計算されます。基本的に99.99%の1kgバーは「純金」として計算されるのに対して、ラージバーは一本一本その純金量によって価値が変わります。そのため1kgバーの方が取引が簡単です。すべて同じ基準で取引できるからです。1kgバーは現在のマーケットでは一本で700万円近い価値があり、個人投資家には価値が高すぎ、一般にはもう少し小さなサイズのバーが多く取引されます。500グラム、100グラム、50グラムから1グラムまで、すべて99.99%の純金ですが、サイズが小さくなればその分買いやすい価格になりますが、改鑄のコストとしてスモールバーチャージがというプレミアムが課され、1kgバーよりも若干割高となるのが普通です。そして取引の品位はその地域によって変わってきます。東アジアの日本、中国、韓国、香港、台湾、そしてタイやベトナム、シンガポールといった東南アジア諸国では99.99%の品位のゴールドが基本ですが、インド、パキスタンのような南西アジアからドバイ、サウジアラビアなどの中東では99.5%のゴールドが取引の標準品位であり、ゴールドの世界ではインド、パキスタンと中国との境に「国境」があります。そのため、例えば東南アジアの各国へのゴールド現物の供給はシンガポールや香港がハブとなりますが、インドや中東への供給はUAEのドバイがその中継地になります。品位が違うために、よっぽどのが無い限りこの二つのグループの間の直接的な取引はありません。もし東アジアから中東へゴールドを持っていく場合はたいていスイスの精錬所で99.99%を99.5%に鑄なおすということになるのです。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

